

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	オランダ	
学校名	藤枝明誠高等学校	氏名	菅ヶ谷 桜パラマルタ	学年	高2

オランダから学ぼう！

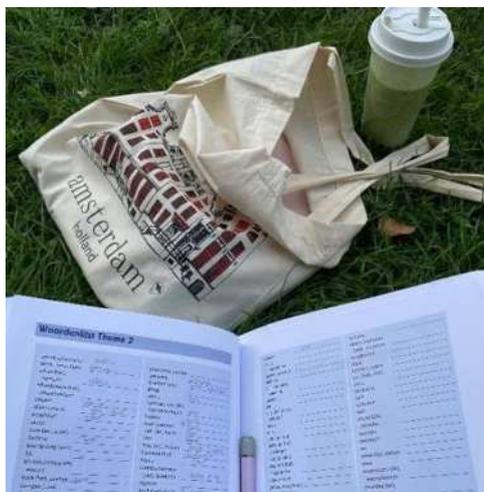
— 移民受け入れの体制・多文化共生社会 —

【探究の背景】 静岡県では外国人住民が年々増加しており、多文化共生の重要性が高まっております。15歳で来日した私は、日本語を学びながら生活する中で、言語や文化の違いによる困難を実感してまいりました。その経験から、言語の壁を下げ、対話を通じて相互理解を深めることが、多文化共生社会の実現には不可欠であると考えようになりました。移民の受け入れが進んでいるオランダには、静岡県が今後多文化共生社会を進めていく上で参考となる制度や社会の在り方があると考え、トビタテ留学を通じて、本探究に取り組みました。

【留学の概要】 8月2日～8月10日 タイトジェンホルン市 (ホームステイ)、8月11日～8月22日 アムステルダム (ホテル)、8月23日～9月6日 ドロンテン市 (ホームステイ)

【留学の目的】 〈探究〉①移民政策に比較的成功してきた国の事例を日本に紹介すること。②言語教育の全体像を観察すること。③オランダ人(ローカル)の視点から見た「移民」への意識を探ること。

〈自己成長〉①自分の中にある「問い」を明確にするため。②ヨーロッパ(先進国)に住む人々の生活を体感するため。③自身の可能性を広げるため。



【活動内容】 ①アムステルダムにて約2週間、語学学校に通い、オランダ語 A1 レベルを修了しました。②移民の歴史に関する博物館を2か所訪問しました。③街中観察（スーパーに並ぶ食品の多様性、公共交通機関の多言語表記）を行いました。④市内図書館で実施されているオランダ語教室を見学しました。⑤ 難民施設を訪問しました。⑥ ボランティアの方、難民の方、語学教師の方へ1時間以上のインタビューを行いました。⑦ モスクを訪問しました。



【結果】〈探究〉①多様な背景を持つ移民・難民（パキスタン、クルド、イラン、フィリピン、日本、南アフリカ共和国から）の方々へのインタビューを通して、ニュースでは捉えきれない「一人ひとりの人生」として移民問題を理解することができました。②言語能力は、学校教育のみならず、幼少期から触れてきた環境や日常的な言語接触が大きく影響していることが分かりました。③移民受け入れに対する反対意見は差別ではなく、生活への不安として捉えた上で、冷静に議論を進める必要があると感じました。④行政・市民・民間団体の役割分担が明確であるため、移民支援が社会の中で円滑に機能している点が印象的でした。

〈自己成長〉ヨーロッパでの生活を探究と結びつけて体験することで、向上心が高まりました。先進国から学ぶ機会を得たことで、日本の将来に希望を持つようになり、社会課題に貢献したいという意識が芽生えました。また、進学につながる学びを通して、自身が学びたい分野を明確にすることができました。加えて、ホテルでの2週間の単独滞在や、一人での移動を通じて、生活管理や行動面での自立心を養うことができました！

【まとめ】 トビタテ！留学 JAPAN を通じて得た本留学経験は、私のこれまでの人生や今後の進路を考える上で、大変重要なものとなりました。本留学を支援してくださった企業の皆さま、ならびに関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。これからも、身近にある社会問題に目を向け、常に貢献していきたいと思えます。